

ウチダバスターズ通信

再復活第13号 (特大版)

発行日 2013/5/15



およそ2年半ぶりの再発行です！！

自分でも気づかないうちに外見がまあく変化しているようですが、変わらない想いを抱いています。そのことを伝えるべく、またしても(性懲りもなく)ウチダバスターズ通信をお届けします。

◎北海道 e-水プロジェクトで始動

私が旭川市で初めてウチダ君に出会ったのが平成19年なので、それからもう7年目のシーズンとなりました。旭川市には石狩川の支流、江丹別川に生息しています。

平成20年「ざりがに探偵団」を中心にウチダザリガニバスターズが結成され、本格的なウチダザリガニの防除がスタートしました。私は転勤異動で半離脱したものの、その後も旭川ではウチダ防除活動は継続して行われ、年々捕獲数は増加していたのですが、石狩川本流への流出を残念ながら確認。市民ボランティア頼みの防除では江丹別川における根絶は不可能との判断により、平成23年は活動を停止してしまいました。



真ん中のウチダがわかるかな？

しかし、そこは諦めの悪い面々揃い！(ゴメンナサイ) 継続しなければ想いは叶いません。再開の道を探っていたところ、旭川市役所との協働事業が採択され、一年間のブランクのあと、昨年旭川ウチダザリガニ防除隊としてリスタートしたのです。

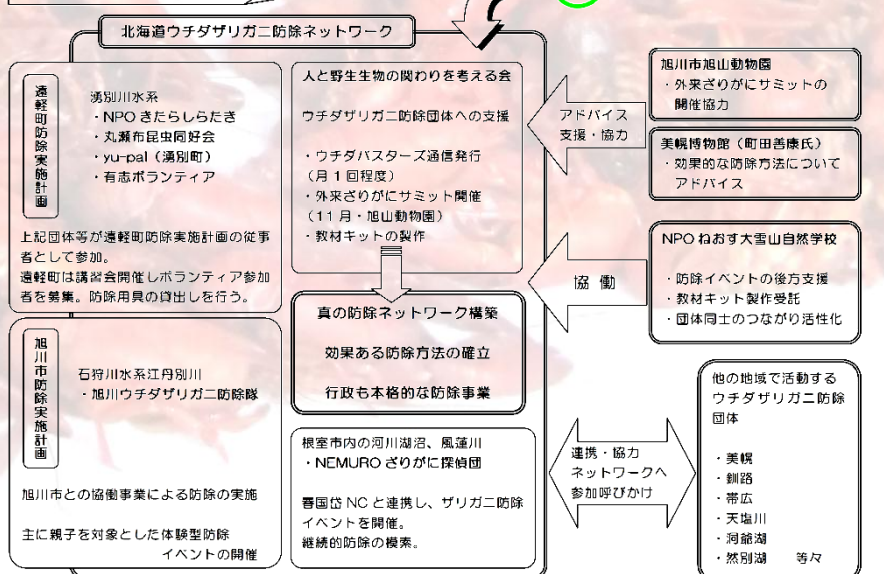
一方この私。転勤先の根室でも市内の公園でウチダザリガニを発見。「NEMURO ざりがに探偵団」の名前で環境省から防除認定を取得しましたが、三年間の根室生活から昨年異動となり遠軽町へ。一級河川・湧別川にもウチダザリガニが……遠軽町は生物多様性地域戦略の策定を目指しており、その意味からも外来種対策は必須となります。今年、遠軽町も町民ボランティアを募りウチダザリガニの防除を強化する予定です。

旭川→根室→遠軽と渡り歩いて、貴重な財産となったのは何よりウチダ防除に参加する皆さんとの絆です。

各地でつくることができた絆をつなげることはできないか。解決が見えない外来種問題に、少しでも役に立つことはできないか。考えた末、北海道環境財団が募集する北海道 e-水プロジェクトに応募したところ、みごと(何故か!?) 採択されたのです。詳しくは追々に説明しますが、今年度11月まで右図のイメージで活動することになりました。

道内では他の地域でもウチダ防除に取り組む市民団体が活躍しています。連携を呼びかけ、北海道ウチダ防除のネットワーク化にチャレンジします！！

2013活動イメージ



◎旭川ウチダザリガニ防除隊からのお便り紹介

道職員である私は、旭川にいた頃は「お仕事」としてウチダ防除に関わっていましたが、参加してくれる方々のほとんどがボランティアです。そして並々ならぬ情熱を抱いています。そのような防除隊メンバーから頂いた、想いがたっぷりつまったお便りを紹介します。

ウチダバスターズ通信発行に向けて（防除隊隊長 荒川信基）

ウチダザリガニ防除隊としての活動が2年目に入ります。昨年は、25名の隊員が多くの市民との協力の中で20回に及び防除により約6000匹駆除という成果を上げることが出来ました。

しかし江丹別川に増え続けるウチダザリガニは、多勢に無勢と思えるくらい、アメーバが増殖するように増え続けています。だからと言って手をこまねているわけにはいきません。ここからが、ウチダザリガニ防除隊の本領発揮です。

自分達に出来ることからしよう、本流だけでなく支流へ。本流の上流域への拡散防止、支流への入り込み防止。私たちの活動の原動力は身の丈より少し背伸びしても手が届くくらいの目標を実行に移すところにあるのだと思います。更に、「継続は力なり」を正に地で行っているのが、メンバーのすごいところです。異なる、年齢層・職業・使用可能な時間を網羅して実際の活動につなげるだけでなく、事前の打ち合わせ会議では、それぞれの意見を実によくお互いがくみ取り、理解し、自分の考えを重ね合わせていく過程で、実行可能な計画が姿を現してきます。

防除隊の目的は「江丹別、ひいては北海道の在来生物が生存できるための自然環境を次の世代に引き継いでゆく」ところにあります。

2年目、防除隊の活動はいい意味で、増殖する可能性があります。それは同じ思いを持っている他の地域の活動と手を携えることで理解者、協力者が市民、行政共に広がってゆくことを意味しています。天気は左右され、危険を伴う作業ですが、今年も着実に成果を上げることが期待と共に確信しています。



私のザリガニバスターズの始まりは（児玉はつ枝）



川に入る子ども達に危険がないようにみて欲しい、ということでした。子どもたちは川に入る前に川の中で走らない、蜂が飛んできて騒がない。川の石をそっとめくるとザリガニは見つかるよ、その石はもとに戻してなど、色々な約束をする。そして、子ども達はアミやバケツを手にとって、いざ川の中へ（小さい子もいるので支流の浅瀬）『いた！みつけた！』と3~4cmくらいのウチダザリガニを手で捕まえる子。アミをガサガサして捕まえる子。自分の目の前にザリガニがいても怖くて捕まえられない子。ドジョウやヤゴを見つける子。

一人ひとりの子どもが川の面白さを体験していた。もちろん保護者も手取り捕獲をしているのですが、濡れていることも忘れて夢中になって捕まえていました。その後、特定外来生物ウチダザリガニの学習会をし、茹で上がって赤くなったウチダザリガニを試食して終了でしたが、その味はまさしくタラバガニ×ハナサキガニ！！

夏の川でのウチダザリガニ捕獲体験は、とても印象的で私を虜にする出来事でした。

前ページで紹介した荒川さんは地元で短角牛を飼育する牧場主さんです。多忙の身でありながら快く防除隊の隊長を引き受けてくださったと聞いています。牧場にはレストランもあり、美味しい肉料理が堪能できます。宿泊して夜は満天の星を楽しむこともできます。(http://www.nouka-minshuku.com/subpage/item_page001.html)

児玉さんは防除隊の切込隊長というイメージ。いつも明るく元気よく、まわりを楽しくさせてくれます。

そしてもうひとつから。この方の八面六臂の動きがあったからこそ、旭川ウチダザリガニ防除隊が誕生したのでしょう。江丹別の自然を大切に思う気持ちは人一倍強いはずです。

五年後も活動！！（大杉孝子）



ウチダザリガニと出逢ったのは6年前、その頃の江丹別公民館の館長さんからの電話からです。「江丹別川に、すごいものが見つかったから見においで～」との連絡でした。

仕事がお休みでしたので川まで行くと大きなザリガニ！！江丹別川の自然豊かな恵みでこんなに大きいザリガニがいるんだ！と思いました。しかも在来種みたいな名前でしたし～。しかし、それが特定外来生物のウチダザリガニと知ることとなりました。

それから今日まで、メンバーと参加者の皆様の努力のたまもの活動が続いています。

あるときは、慣れない胸つきを履いての川歩き。足をとられてダイビング！全身びしょぬれ～

あるときは、大きな鋏に指を挟まれ絶叫！水につけて～と言われて慌てて水にいれると、するっと抜けて、ほっとした日も！

あるときは、頭をクッとだしてモンドリのかご近くをへびさんが泳いできて、ぎょっ！

あるときは、大量のザリガニ計測に目がかすみ腰も痛くなり～捕れ過ぎ～！！とつぶやく！

願いは子ども達も大人達も「ちょっと時間ができたから、ザリガニでも防除してこようか～」と、ごく身近に地元の人たちも含め、川に入ることができる環境をつくっていくことかな。

そしてウチダザリガニって特定外来生物なんだということを多くの人たちに知ってもらうことです。



5月18日に旭川市との協働事業の公開プレゼンテーションで提案発表とのこと。がんばってください！

継続することはとても難しいですが、何より大事なことだと思います。読者のみなさんも「旭川ウチダザリガニ防除隊」に絶大な応援をよろしくお願いします。

◎遠軽ではウチダザリガニ研修会

湧別川水系で最初にウチダザリガニが侵入したのは支流の武利川とされていますが、案の定というべきか湧別川本流まで生息域が拡大し、今では市街地を流れる用水路でも見られるようになっています。

町民のみなさんの理解促進と防除従事者を募集するため、5月30日にウチダザリガニ研修会を開催します。講師には、美幌博物館から町田善康さんをお招きします。問合せは遠軽町農政林務課まで(Tel0158-42-4819)

君が持っているのは十二！？



◎根室では6月にウチダ防除イベントを開催



柵越えは公認の掟破り！

根室を離れてしまいましたが、春国岱ネイチャーセンターの主催行事として、昨年も NEMURO ざりがに探偵団の活動はありました。このときは過去最高の参加人数。子供たちの歓声が響き渡りました。

今年も6月16日(日)に市内の明治公園の池で防除イベントを実施します。問合せは春国岱ネイチャーセンター(Tel.0153-25-3047)まで。

NEMURO ざりがに探偵団の防除期間は来年3月まで。期間を延長する気は今のところありません。代表不在では無責任

ですからね。ですから、これが NEMURO ざりがに探偵団の最後の活動になるかも知れません。

ただ、根室でのウチダ防除が最後になるのは本意ではありません。有望な個人、団体が引き継いでくれるのを期待して、来月も根室に遠征しようと思います。

◎北海道ウチダザリガニ防除ネットワークをつくりたい

北海道 e-水プロジェクトにより助成していただく資金は、有意義に使わせてもらいます。先だってキックオフミーティングが栗山町で行われ、考える会代表の柳田さんと参加し、ほかの採択団体の皆さんの前で決意表明をしてきました。

用途の主な予定ですが、講習用の教材キットを製作します。製作は東川町の NPO 法人ねおす「大雪山自然学校」にお手伝いをお願いしました。一度でもウチダ防除に参加した人なら、人前に立つ度胸プラスこれを使えば誰でも講習講師になれる、というようなものを作れると良いなあ。要するに「虎の巻」です。

秋には「外来ざりがにサミット」を開催します。場所は旭山動物園です。旭山動物園では毎年「外来生物の現状展」を開いており、コラボレーション企画となります。園長からも直々の快諾をもらったのですが、正直なところ自分がここまで大きな風呂敷を広げて、きちんと実行できるのか不安です。

が、まあ何とかなるさ大丈夫。無理なく楽しく、でも真剣に。をモットーに進めていこうと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

現在のところウチダ防除の連携は、市町村でいえば旭川市・根室市・遠軽町・湧別町が参加していることになります。美幌町は支援をいただくという形で関わりがあります。道内では他にもたくさんウチダ防除に取り組んでいる地域がありますから、ぜひともこのネットワークに参加してほしいのです。こちらからもコンタクトを取っていきますが、もしこのウチダバスターズ通信を御覧になられましたら、下記まで連絡ください。

一緒になって、頑張りましょう！！

というわけで、今号は特大4ページの構成でお届けしましたが、いつもは筆力と予算の都合上、A4表裏の2ページにて発行します。次号、乞うご期待。感想、質問、投稿を募集中！



[ジョージア州アトランタ] 愛飲が環境保全に役立つ

ウチダバスターズ通信は、メール配信も可能です。経費削減と地球環境保全の観点からも、メールアドレスをお持ちの方は、ぜひメール配信を希望してください。申込みは右記アドレスに。PDF ファイル。本号で約 1.39MB です

※ウチダザリガニ防除の感想や質問など募集中!!
発行：人と野生生物の関わりを考える会
文責：高橋克巳(職場：遠軽町経済部農政林務課)
連絡先：(職場まで：TEL0158-42-4819)
E-Mail：klugerv643@yahoo.co.jp